

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
看護学概論	1	30	1	1・2	教育主事 (実務経験:病院での看護)	
到達目標						
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 看護とは 1)看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)		講義	課題:①「その人らしい生活」レポート ②闘病記を読み、患者心理を考える		
2	1)看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)		グループワーク・発表			
3	2)看護の定義 3)看護の役割と機能 (1)看護ケアについて (2)看護実践とその質保障に必要な要件 (3)看護の質保障に不可欠な要件 (4)看護の役割・機能の拡大		講義			
4	2. 看護の対象の理解 1)看護の対象としての人間 ・人間のこころとからだ、生涯発達しつづける存在 ・人間の暮らし		講義			
5	3. 健康のとらえ方 ・健康とは、健康でない状態、障害とは 生活と健康、健康の実現、ライフサイクルと健康・生活 健康・生活とQOL		講義			
6	4. 看護の提供者 1)看護の歴史 2)職業としての看護 3)看護職者の就業状況と継続教育 4)看護職養成制度の課題		講義			
7	5. 看護サービスの提供の場 1)看護サービス提供の担い手 2)チーム医療 3)さまざまな医療・介護・福祉の専門職		講義			
8	4)医療施設における看護 5)地域における看護 6)継続看護		講義			課題:「看護の継続性と連携」レポート
9	6. 看護理論 1)看護理論とは 2)看護理論に基づいた実践		講義・演習			
10	各理論家の背景、主要概念、理論の内容 ・事例を用いた看護の展開または具体的に理解した内容		グループワーク			
11			グループワーク			
12	各理論家のまとめ		発表			課題:「看護覚え書」レポート 45分
13	7. 看護をめぐる制度と政策 1)看護制度 2)保健師助産師看護師法 3)看護業務基準		講義			
14	8. 看護における倫理 1)看護倫理 2)患者の権利とインフォームドコンセント 3)倫理的問題 4)看護者の倫理綱領		講義			
15	5)医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 6)看護学生の実習における倫理		講義			
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(70点) レポート(30点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト		基礎看護学1 看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書 やさしく学ぶ看護理論 医学書院 日本看護協会出版会 現代社 日総研				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術 I	1	30	1	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 環境調整技術の基礎知識 1)環境とは 2)人間にとって環境の意味 2. 快適な生活環境とは	講義	【事前学習】 ・看護学概論の主要概念の定義について学習する。 ・ナイチンゲール著「看護覚え書」を読み要約する。		
2	3. 健康な生活環境 1)至適環境条件とは 2)生活環境の因子 (1)生理的欲求が満たされる場としての環境 (2)社会生活の欲求が満たされる場としての環境 (3)快適さの個人差 4. 患者にとっての快適な生活環境 1)患者の生活環境の条件 (1)病棟の構造、病室の広さ、プライバシー (2)病室、ベッドの種類、高さなど (3)室内気候、採光、騒音など	講義	・自分にとって健康な生活環境についてまとめる。 ・学習環境の温度・湿度等を測定し、快適さに関与している条件について考える。 ・テキストを活用し、環境整備・ベッドメイキングの方法・手順を調べる		
3	5. 療養環境を整える援助の方法 1)環境整備 2)ベッドメイキング	講義			
4	6. 療養環境を整える援助の実際 1)ベッドメイキング 2)リネンのたたみ方	演習	【事前学習】 ・臥床患者のシーツ交換の手順・方法について調べる 【事後課題】 学習した技術の原理原則を理解し、技術練習を行う		
5	7. 臥床患者のリネン交換と病床の整備 1)臥床患者のリネン交換と留意点 2)病床の整備	講義			
6	3)臥床患者のシーツ交換	演習			
7	3)臥床患者のシーツ交換	演習	45分		
8	7. 療養環境を整える援助の実際:演習の振り返り	講義			
9	6. コミュニケーションとは 1)コミュニケーションの特徴 2)コミュニケーションの基本・手段 3)構成要素と成立過程	講義			
10	7. 看護におけるコミュニケーション 1)目的 2)特徴 3)重要性	講義			
11	8. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義 演習			
12	9. コミュニケーションの実際:事例討議 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)説明の技術	講義 演習			
13	9. コミュニケーションの実際:事例討議 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)説明の技術	演習	【事前学習】 事例の患者に対してコミュニケーションの実際・方法を考える。		
14	10. コミュニケーションの実際	演習			
15	11.アサーティブネス	講義 演習			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	基礎看護学2 基礎看護技術 I 看護の基本となるもの 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		医学書院 日本看護協会出版会 医学書院		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅱ	1	30	1	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 観察 1)観察とは 2)看護における観察の重要性 3)観察の種類 4)観察の方法・実際 (1)直観的・系統的観察法 (2)観察の視点	講義	【事後課題】 ・他者(同意を得る)を観察し、まとめる。観察した内容から事故の観察の視点を振り返る。 【事前課題】 ・血圧の点検を行い、使用方法を理解する。他者の血圧を測定し手順・方法を理解する。 【夏季休業中の課題】 ・身近な人のバイタルサイン測定を行い、技術の練習と評価を行う。 45分 【事前課題】 ・各系統の解剖生理学を予習・復習し、フィジカルイグザムで得られたデータのアセスメントに活用する。 45分		
2	(3)観察の手段 ・感覚器による観察、言葉による観察 器機・器具による観察:身体計測	講義 演習			
3	2. バイタルサイン 1)バイタルサイン測定の目的 2)バイタルサイン測定の方法:体温・脈拍・意識 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義			
4	3)バイタルサイン測定の方法:呼吸・血圧 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義			
5	3. バイタルサイン測定の実際 ・呼吸測定 ・血圧測定 ・脈拍測定 ・体温測定	演習			
6					
7	実技試験				
8	4. 看護におけるフィジカルアセスメント 1)フィジカルアセスメントに共通する技術 ・視診・触診・聴診・打診	講義			
9	5. フィジカルアセスメントの方法 1)系統別フィジカルイグザムの方法:呼吸器系 ・胸腹部ランドマーク	講義 演習			
10	2)系統別フィジカルイグザムの方法:呼吸器系	講義 演習			
11	3)系統別フィジカルイグザムの方法:循環器系	講義 演習			
12	4)系統別フィジカルイグザムの方法:消化器系	講義 演習			
13	5)系統別フィジカルイグザムの方法:脳神経系(1)	講義 演習			
14	5)系統別フィジカルイグザムの方法:脳神経系(2)	講義 演習			
15	6)系統別フィジカルイグザムの方法:筋骨格器系	演習			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(60点) 実技試験(バイタルサイン測定)(40点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅲ	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 安全の概念 1)安全とは 2. 安全を阻害する因子 1)対象者自身の問題 2)医療者自身の問題 3)生活環境や療養環境の場に潜む問題 4)主な事故の発生要因	講義	・安全はすべての看護技術の根底となるため学んだ知識・技術を復習し、基本看護技術・生活援助技術・臨床看護技術で活用する。 【事前学習】 ・自分の生活環境など身近な事例を用いて安全について考える。(新聞やニュースなどから収集する)		
2	3. 安全を守る技術 1)自ら事故発生要因にならないための行動 2)自ら事故を守る行為	講義	【事後学習】 ・主な感染経路とその対策についてまとめる。		
3	4. 感染防止の基礎知識 1)感染の成立と予防 2)感染拡大の防止の対応	講義 演習	【事前学習】 ・手指衛生・衛生的手洗いの原理原則とその根拠について、テキストや動画を活用して学習する。 ・個人防護用具を正しく装着できるようにその手順と根拠を調べておく。		
4	5. 感染防止の実際 1)手指衛生:衛生的手洗い (1)流水による手洗い (2)手指消毒 (3)標準予防策(スタンダードプリコーション) (4)感染経路別予防策 (5)個人防護用具(PPE)	演習	【事前学習】 ・必要な濃度の溶解液を作成するための計算式を確認する。		
5	6. 感染防止の基礎知識 ・病原体除去(洗浄、消毒、滅菌) ・消毒法・消毒液の計算	講義	【事後学習】 ・無菌操作の技術について、原理原則とその根拠についてテキストや動画を活用して学習する。		
6	7. 無菌操作 1)滅菌物の取り出し方 2)隔離 3)ガウンテクニック 4)感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習	【事前学習】 ・骨格、骨格筋、間接運動の構造と機能について学習する。		
7	8. 感染防止の実際 2)無菌操作	演習	【事後課題】 ・演習後は学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
8	1. 基本的活動の基礎知識 1)活動・運動の意義 2)活動と運動に影響する要因 2. 休息と睡眠 1)休息と睡眠の意義	講義	【事前学習】 ・物理学の「力のつりあい」「力のモーメント」と合わせて学習する。		
9	3. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 4. 体位 5. 安楽な姿勢・体位保持(ポジショニング)	講義	・自己の1日(24時間)の生活行動についてまとめ、活動と睡眠に影響していることについて考えを提出する。		
10	6. 移動の援助 1)移動の意義・目的 2)移動の援助と安全:転倒・転落等 3)援助の方法 (1)車椅子への移動 (2)ベッドからストレッチャーへの移動	講義	「同一体位による身体面・精神面への影響」についてまとめ、提出する。		
11	7. 移動の技術(体位変換) ・水平移動、仰臥位から長座位、長座位から端座位	演習	45分		
12	8. 移動の技術(車椅子への移乗) ・端座位から車椅子への移乗	演習	45分		
13	9. 車椅子、ストレッチャー移送の援助技術 (1)車椅子での移送 (2)ストレッチャーでの移送	講義			
14	10. 車椅子、ストレッチャー移送の実際(演習) ・車椅子の移送 ・ベッドからストレッチャーの移動、移送 ・スライディングシートを使用した移乗方法	演習			
15	終講試験				
16	実技試験(車椅子移乗)				
評価方法	筆記試験(60点)・実技試験(車椅子移乗)(40点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅳ	1	30	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 看護過程とは 1)看護過程の意味と位置づけ 2)看護過程の構成要素	講義	・日頃、問題が生じた際にどのように解決しているか振り返る。		
2	2. 看護過程の基盤となる考え方 1)問題解決課程 2)クリティカルシンキング 3)リフレクション	講義	【事前学習】 ・主要概念について自己の考えをまとめる。		
3	3. 看護過程の構成要素:アセスメント 1)情報収集の種類、分類、分析	講義 グループワーク			
4	3. 看護過程の構成要素:アセスメント 2)全体像の把握(関連図)	講義 グループワーク			
5	3. 看護過程の構成要素:看護問題の明確化 1)看護問題の種類、優先順位、問題リスト 2)看護計画(目標設定)	講義 グループワーク			
6	3. 看護過程の構成要素:看護計画・実施・評価 1)看護計画の表記 2)クリティカルパス 3)評価(評価の方法)	講義 グループワーク			
7	4. 看護過程演習 1)アセスメント	講義 グループワーク			
8	4. 看護過程演習 1)アセスメント 2)看護問題の明確化	講義 グループワーク			
9	4. 看護過程演習 3)計画立案	講義 グループワーク			
10	4. 看護過程演習 4)実施・評価	演習			
11	4. 看護過程演習 5)評価・報告・記録	講義			
12	5. 記録 1)記録とは、記録の意義・目的、看護記録の基本的要素 種類:POS、フォーカスチャータリング、記録の様式 2)記録の管理、法的根拠、記録時の留意事項・情報開示含む	講義	【事前学習】 ・看護師の責務について復習する ・看護学生の情報管理について世間で生じた問題について調べる		
13	6. 看護過程演習まとめ 看護過程と臨床判断	講義			
14	1. 指導技術の意義と重要性 2. 対象・場所による指導技術 1)発達段階、健康時、健康障害時 2)個別指導 3)集団指導	講義	【事前学習】 ・地域で行われている健康教育にどのようなものがあるか調べる。		
15	3. 対象・場所による指導技術 1)個別指導 2)集団指導 3)VTR視聴 4. 効果的な指導の実際 1)指導のプロセス 2)指導技法	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師により説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 看護の基本となるもの 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント		医学書院 ニューエルヒロカワ 日本看護協会出版会 学研		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅰ	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 食べるとは 1)食事と栄養の意義 2)食事のメカニズム 3)食行動に影響を与える因子 4)食欲のメカニズム 5)味覚	講義	【事前学習】 ・消化器系の解剖と機能、栄養と消化・吸収機能、嚥下の過程について学習する。 ・自己の食生活をまとめる。 【事前学習】 ・食物の消化と糞便の形成、排尿をつかさどる神経、排便をつかさどる神経をまとめる。 ・排泄記録(排便・排尿日誌)をつける ・各種便器・尿器の目的・用途・特徴についてまとめる。 ・おむつ交換の動画を視聴する。		
2	2. 食事と栄養のアセスメント 1)栄養状態のアセスメント (1)観察、計測 (2)指標と検査データ: BMIなど (3)食事摂取基準 2)水分・電解質バランスのアセスメント 3)食欲のアセスメント 4)摂食・嚥下能力のアセスメント 5)摂食行動のアセスメント	講義			
3	3. 医療施設で提供される食事の種類と形態 1)特別食 2)食形態 4. 食事行動を整える援助の方法 1)食事摂取の介助 2)事故防止(誤嚥)	講義			
4	5. 食事摂取の援助の実際 : 食事介助	演習			
5	6. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義 2)排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3)排泄に影響する因子	講義			
6	7. 排泄のアセスメントに必要な視点 1)排尿のアセスメントに必要な視点 2)移動動作のアセスメントに必要な視点	講義			
7	7. 排泄のアセスメントに必要な視点 3)心理・社会的状態のアセスメントに必要な視点	講義			
8	8. 自然な排泄を促すための援助 1)トイレ 2)ポータブルトイレ 3)床上排泄援助(尿器・便器)・おむつ	講義 演習			
9	9. 排泄の援助の実際(演習) 1)便器、尿器の挿入	演習			
10	9. 排泄の援助の実際(演習) 2)おむつ交換	演習			
11	10. 排泄障害 1)排便障害の種類 2)排便障害を示す対象の観察 3)排便障害を示す対象への援助の方法:グリセリン浣腸、摘便	講義			
12	11. 排泄障害 1)排尿障害の種類 2)排尿障害を示す対象の観察 3)排尿障害を示す対象への援助の方法 :一時的導尿、膀胱留置カテーテル	講義			
13	12. 排尿障害を示す対象への援助の実際:一時的導尿	演習			
14					
15	13. 排便障害を示す対象への援助の実際:グリセリン浣腸、摘便	演習			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅱ	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 清潔とは 1)清潔の意義、目的 2)皮膚の構造と生理 3)清潔に影響を与える因子(身体面・精神面・社会面)	講義	【事前学習】 ・自己の清潔・衣生活において大事にしていること・価値観をまとめる。 ・解剖生理学のテキストを活用し、皮膚の構造やはたらきについて調べる。 ・身体各部の関節可動域について学習する。 ・各演習前には事前学習の課題あり。技術について原理原則とその根拠について、テキスト・動画を活用しまとめる。 【事後学習】 学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
2	2. 衣生活とは 1)衣服を用いることの意義 2)衣服気候 3. 衣服に関するニーズのアセスメント 1)衣類に影響を及ぼす因子	講義			
3	4. 衣服の条件と選択 1)寝衣に求められる条件 2)下着に求められる条件 3)病衣の選び方(病衣の種類:和式寝具、パジャマなど)	講義			
4	5. 衣生活の援助の方法 1)和式寝衣交換の援助 2)和式寝衣のたたみ方	講義			
5	6. 臥床患者の寝衣交換の実際	演習			
6	7. 全身の清潔法:入浴、シャワー浴、全身清拭 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)入浴、シャワー浴、全身清拭の援助の基礎知識	講義			
7	8. 清潔の援助の実際 : 臥床患者の全身清拭	演習			
8	9. 各部の清潔法:足浴・手浴 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)足浴・手浴の援助の基礎知識	講義 演習			
9	10. 清潔の援助の実際 : 足浴	演習			
10	11. 各部の清潔法:洗髪 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)洗髪の援助の基礎知識	講義 演習			
11	12. 清潔の援助の実際 : 洗髪	演習			
12	13. 各部の清潔法:陰部洗浄 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)陰部洗浄の援助の基礎知識	講義 演習			
13	14. 清潔の援助の実際 : 陰部洗浄	演習			
14	15. 各部の清潔法:口腔ケア・整容 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)口腔ケア・整容の援助の基礎知識	講義 演習			
15	実技試験			45分	
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験(60点)・実技試験(清拭・寝衣交換)(40点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名			
臨床看護技術Ⅱ	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での看護) 院内講師			
到達目標								
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる								
時	授業内容	方法	備考					
1	1. 検査 1)検査とは 2)検査の意義・目的 3)検査の種類: 検体検査、生体検査	講義	【事前課題】 ・各種検体検査、生体検査について調べる。 ・静脈血採血を実施する血管の走行と周囲の組織、神経等について調べる。 ・薬理の作用、吸収過程について、薬理学と関連付けて学習する。 ・輸液療法を受ける対象の日常生活行動への影響と援助についてまとめる。					
2	2. 検査を受ける対象の援助 1)検査における看護師の役割 2)生体検査の援助 (1)生理機能検査: 呼吸機能検査・心電図検査 (2)画像診断検査: X線検査・CT・造影検査・MRI・内視鏡 (3)超音波検査・核医学検査	講義						
3	3. 検査を受ける対象への援助 1)検体検査の援助 (1)検体の取り扱い (2)検体の採取	講義						
4	2)検体検査の取り扱い(血液) 3)検体検査の採取:採血法	講義						
5	4. 検体検査の援助の実際:採血法、検体の取り扱い	演習						
6	5. 薬物療法 1)薬物療法とは 2)薬物療法の目的・意義 3)薬物の作用・吸収過程 6. 薬物の投与経路の種類と適応 7. 与薬における看護師の役割 1)正しい与薬 6R 2)薬物療法中のニーズの把握と充足のための援助	講義						
7	8. 各与薬法の援助方法 1)経口与薬法 2)直腸内与薬法 3)塗布・塗擦法 4)点眼・点鼻 5)吸入	講義						
8	8. 各与薬法の援助方法の実際 1)経口与薬法 2)直腸内与薬法 3)塗布・塗擦法	演習						
9	9. 各与薬法の援助方法 1)注射法 (1)注射法の種類: 皮下・皮内注射・筋肉・静脈注射 (2)注射器具の取り扱い (3)薬液の準備(アンプル・バイアル)	演習						
10	10. 輸液療法 1)輸液療法とは 2)輸液療法の目的・意義 3)輸液の種類と特徴	講義						
11	11. 輸液療法を受ける対象への援助 1)看護師の役割 2)点滴静脈内注射の方法 (1)物品の構造と取り扱い (2)バイアルのミキシング (3)輸液セットの準備と接続 (4)滴下数の調節 (5)輸液中の観察 (6)注射針の刺入・固定	講義						
12	12. 点滴静脈内注射の準備 1)6R、注射器 2)注射針の取り扱い 3)バイアルのミキシング 4)輸液セットの準備と接続	演習						
13	12. 点滴静脈内注射の準備 5)滴下数の調整 6)針刺し防止対策	演習						
14	13. 筋肉内注射 1)6R、注射器 2)注射針の取り扱い 3)アンプルからの薬液吸い上げ 4)筋肉内注射	演習						
15	実技試験					45分		
16	終講試験					45分		
評価方法	筆記試験(60点)、実技試験(アンプルのミキシング・輸液セットの準備)(40点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。							
テキスト	基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院							

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
臨床看護技術Ⅲ	1	30	2	1.2	教員 (実務経験:病院での看護)	
到達目標						
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる						
時	授業内容	方法	備考			
1	臨床判断とは 1)臨床判断 2)臨床判断モデル	講義				
2	症状のある対象の看護 1)循環障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習	45分	【事前学習】 ・各種の症状出現のメカニズムと対症看護について学習する。		
3	2)循環障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習		・フィジカルアセスメントについて復習する。		
4	3)循環障害の判断:情報収集 ・観察の実際	演習		【事後課題】 ・判断に必要な観察や分析、必要な援助についてまとめる。		
5	4)循環障害の判断 ・援助の実施、評価	演習				
6	5)呼吸障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習				
7	6)呼吸障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習				
8	7)呼吸障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習				
9	8)呼吸障害の判断:情報収集 ・観察の実際	演習				
10	9)呼吸障害の判断 ・援助の実施・評価	演習				
11	10)意識障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習				
12	11)意識障害の判断 ・アセスメント ・看護計画の立案	講義 演習				
13	13)意識障害の判断:情報収集 ・観察の実際	演習				
14	14)意識障害の判断:情報収集 ・援助の実施・評価	演習				
15	臨床判断まとめ ・リフレクション	演習				
16	終講試験			45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学4 臨床看護総論 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント			医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 学研		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護研究の基礎	1	30	2	2	仲口 路子 教員
到達目標					
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 看護研究とは 2. 看護研究の意義 3. リサーチクエスチョン		講義/ディス カッション	【事前課題】 テキストp4～p43を読む 【事後課題】「リサーチクエスチョン」とは何かを自分で考えてノートに書く	
2	4. 看護研究における文献検討 1)情報の検索の方法 2)文献レビューとその目的 3)文献の読み方		講義/演習	iPadでの文献検索 【事前課題】 テキストp46～p82を読む 【事後課題】文献(原著論文)を1つ プリントアウトしてクリティークし、次 回の講義時に持参	
3	4. 看護研究における文献検討 4)文献検索の結果と読み込んだ内容の発表 5. 研究における倫理的配慮 1)研究における倫理的配慮の原則		講義/発表	【事前課題】 テキストp84～p106を読む 【事後課題】研究倫理が大変重要 である理由ノートにまとめる	
4	6. 研究デザイン 1)質的研究デザインと量的研究デザイン		講義	【事前課題】 テキストp108～p151を読む 【事後課題】自らの研究関心に基づ き、どのようなデザインが望ましい かを考える	
5	7. データの収集と分析 1)データの収集方法 2)データ分析の方法 8. 研究を伝える		講義	【事前課題】 テキストp156～p202を読む 【事後課題】データに着目しながら 自らの研究関心に基づき、文献検 討を重ねる	
6	9. 研究計画書の作成 1)研究計画書の書式と書き方について		講義/演習	【事前課題】 テキストp156～p202を読む 【事後課題】文献検討を重ね、研究 計画書を書く	
7	10. 研究計画書の作成		演習	【事前課題】 文献検討を深化させる 【事後課題】文献検討を重ね、研究 計画書を完成させる	
8	10. 研究計画書の作成 45分			【終講後の提出課題】自らの研究 関心に基づき、テーマを設定して研 究計画書を作成し、提出	
9	11. ケーススタディとは 1)ケーススタディの定義 2)ケーススタディの目的 3)看護学生がケーススタディをまとめる意義 4)ケーススタディの限界と考慮点		講義	【事後学習】 ・学会誌等を参考に、どのような テーマ・内容で事例研究がされてい るか、論文の構成を学習する。 ・実習中に文献検索を行い、文献 を参考に実践を行う。	
10	12. 看護実践からケーススタディ 1)患者の見方 2)記録の実際 3)ケーススタディの実際 4)ケーススタディの過程と行うにあたっての原則		講義		
11	13. ケーススタディ計画書 14. まとめ方と発表		講義		
12	15. ケーススタディクリティーク		演習		
13	ケーススタディクリティーク		発表		
14	16. ケーススタディ研究計画書の作成		演習		
15	ケーススタディ計画書指導・論文の作成		演習		
16	ケーススタディ論文の発表 45分		演習		
評価方法	研究計画書(50点) クリティーク・ケーススタディ発表(50点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	看護研究 医学書院 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
地域・在宅看護概論	1	15	1	1	教育主事
到達目標					
地域で暮らす人々を理解し、健康を守る国や地域の取り組みを理解できる。□					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 地域で暮らす人 1)日本の人口動向 2)発達段階、発達課題		講義	【事前学習】 日本の人口動向や保健医療福祉の動向について調べて臨む。 ・各地域の特徴(人口、特産等)や健康増進への取り組みについて調べる。 【事前学習】 地域包括ケアシステムについて調べて臨む。	
2	2. 人々の健康を守る保健医療福祉 1)国の保健医療福祉の取り組み(政策)		講義		
3	2)地域における保健医療福祉の取り組み		グループワーク		
4	2)地域における保健医療福祉の取り組み		グループワーク		
5	2)地域における保健医療福祉の取り組み		発表		
6	3)地域で生活するための自助・互助・共助・公助		演習		
7	3. 保健医療福祉をつなぐ地域包括ケアシステム 1)地域包括ケアシステムとは		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
地域・在宅看護援助論 I	1	15	1	1.2	院内講師 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
人々の健康を守る地域包括ケアシステムを理解し、人々の療養の場を理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 人々の健康を支援する場 1) 保健医療福祉 2) 保健活動の場 3) 医療活動の場 4) 福祉活動の場		講義	【事前学習】 自分が暮らす地域にある健康を支援する場を調べて臨む。	
2	5) 自分の暮らす地域にある健康を支援する場を調べる		グループワーク		
3	グループワークの発表 まとめ		発表		
4	2. 病院の機能 1) 病院の種類と機能 2) 病院で活動する職種と役割 3) 医療チームの役割と連携		講義		
5	4) 各職種の活動の実際 5) 医療チームの活動の実際		講義		
6	3. 地域における保健医療福祉施設の機能と役割 1) 保健医療福祉施設の種類と機能 2) 保健医療福祉施設で活動する職種と役割		講義		
7	4. 病院と地域の連携 1) 病院完結型医療から地域完結型医療へ 2) 病・病連携、病・診連携、看・看連携 3) 多職種連携		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験・提出物(100点、配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		地域・在宅看護論1 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	2	1	教員 院内講師
到達目標					
地域で暮らしながら治療を続ける人々を理解し、療養継続を可能にする看護を理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 継続治療・継続看護 1) 社会の動向と地域包括ケアシステム 2) 病院の機能分化と在院日数の短縮 3) 継続医療・継続看護 4) 病・病連携、病・診連携	講義	担当:教員 【事前学習】 地域在宅看護援助論Ⅰを復習して臨む。		
2	2. 地域における療養支援 1) 介護保険制度 2) 自助、公助、共助、互助	講義			
3	3. 外来看護 1) 入院と外来の連携 2) 外来看護の特徴 3) 外来看護の実際 ・受診の流れ ・検査、診察 ・看護	講義			
4	4) 外来看護の実際:事例検討	講義			
5	4. 退院支援と退院調整 1) 退院支援と退院調整とは 2) 退院調整の実際	講義			
6	3) 退院調整の実際:事例検討	演習			
7	5. 継続治療の実際 1) 外来化学療法	講義	担当:院内講師		
8	2) 継続治療の実際:外来化学療法(事例検討)	演習	* 暴露防止の演習を含む		
9	3) 外来放射線療法	講義 演習	担当:院内講師 * 暴露防止の演習を含む		
10	6. リハビリテーションの概念 1) 障害の概念とリハビリテーションの意味 2) リハビリテーション医療におけるチームアプローチ 3) 障害のある人をアセスメントするための基本的な評価ツール 4) 生活行動の再構築に向けた支援	講義	担当:院内講師		
11	7. 在宅リハビリテーション	講義	45分		
12	8. 呼吸器疾患のある対象のアセスメントと呼吸理学療法 1) 体位ドレナージ 2) スクイー징 3) 排痰法	講義	【事前学習】 基礎看護学や老年看護学で学習した内容を復習して臨む。		
13	4) 呼吸理学療法の実際	演習			
14	9. 筋力低下のある対象のアセスメントとリハビリ 1) ROM訓練 2) 筋力をつけるリハビリ 3) 床上から歩行までの離床	講義			
15	4) ROM訓練、筋力をつけるリハビリの実際 5) 床上から歩行までの離床の実際	演習			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1	30	2	1.2	教員 院内講師	
到達目標						
在宅で療養する対象への看護技術について理解する。また、在宅で療養する対象と家族への生活支援について理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 在宅で求められる看護技術 1)アセスメント 2)コミュニケーション 3)活動の制限のアセスメントと生活行為 2. 療養環境を考慮した在宅看護技術：移動・移乗	講義	担当:教員			
2	3. 医療処置を伴う在宅看護技術：呼吸管理 1)NPPV 2)在宅酸素療法(HOT) 3)在宅人工呼吸療法(HMV)と吸引	講義	【事前学習】 呼吸不全の病態について学習して臨む。			
3	NPPVの実際	演習	45分			
4	在宅酸素療法(HOT)の実際	演習				
5	4. 療養環境を考慮した在宅看護技術：食生活・嚥下 5. 医療処置を伴う在宅看護技術：栄養管理 1)経管栄養 2)在宅中心静脈栄養(HPN)	講義		【事前学習】 基礎看護学や老年看護学の復習をして臨む。		
6	経管栄養の実際	演習				
7	6. 療養環境を考慮した在宅看護技術：排泄 7. 医療処置を伴う在宅看護技術：膀胱留置カテーテルの管理	講義 演習	担当:院内講師			
8	8. 療養環境を考慮した在宅看護技術：身体の清潔	講義				
9	9. 医療処置を伴う在宅看護技術：創傷処置 1)褥瘡の基礎知識 2)創傷処置とは 3)創傷処置を受けている対象の援助方法 ・創傷ドレッシング法の目的・種類 ・創傷処置:包帯法 ・創傷部位の観察	講義				
10	10. 褥瘡のアセスメントとケア、予防 1)スキンケア 2)おむつの選択・装着	講義		【事前学習】 基礎看護学や老年看護学の復習をして臨む。		
11	スキンケア、おむつ装着の実際	演習	【事前学習】 消化管の解剖生理について復習して臨む。			
12	3)ポジショニング 4)体位変換 5)体圧分散・除圧	講義				
13	ポジショニング、体位変換、体圧分散・除圧の実際	演習				
14	15. 人工肛門造設術後の生活指導 1)ストーマとは 2)装具について 3)生活の工夫	講義				
15	4)ストーマケア	講義 演習	45分			
16	終講試験					
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 別巻 リハビリテーション看護 専門分野 成人看護学2 呼吸器 専門分野 成人看護学5 消化器		医学書院 医学書院 医学書院 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
地域・在宅看護論演習	1	30	3	1.2	山本 めぐみ (実務経験:在宅での看護) 教員
到達目標					
在宅で療養する対象と家族の特性をふまえた看護の基礎的知識・技術・態度が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 1)脳卒中後遺症の対象(在宅療養導入期) (1)退院支援計画書の立案		演習	担当:教員 【事前学習】 成人臨床看護Ⅲ脳梗塞患者の看護について学習する。	
2	(2)在宅調整の検討		演習		
3	(3)退院前カンファレンス		演習		
4	2)脳卒中後遺症の対象(急性増悪期) (1)事例の状態アセスメント		演習	*scenarioを用いた臨床推論演習を行う。	
5	(2)訪問時の観察、看護		演習		
6	3)認知症のある独居高齢者(移行期) (1)事例のアセスメント		演習		
7	(2)計画の見直し、修正		演習		
8	2. 在宅療養継続のための家族支援		講義	45分	
9	3. 在宅で療養する難病の対象への看護 4. 在宅で療養するがん末期の対象への看護		講義	担当:山本 めぐみ	
10	5. 在宅で療養する医療処置を必要とする対象への援助 1)筋萎縮性側索硬化症(ALS)で人工呼吸療法を実施する対象 ・在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者 : 学童期 (1)事例のアセスメント (2)問題点の明確化		演習	【事前学習】 老年臨床看護の筋萎縮性側索硬化症の病態・治療について学習する。	
11	(3)看護計画の立案		演習		
12	(4)看護計画の追加・修正		演習		
13	6. 在宅で療養する終末期(がん)の対象への援助 1)最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者 (1)事例のアセスメント (2)訪問計画の立案		演習	【事前学習】 成人看護学、老年看護学の終末期看護やエンドオブライフケアについて復習して臨む。	
14	(3)看取りに向けての看護計画の見直し (4)看取りの看護とグリーフケア		演習		
15	(5)演習まとめ		講義		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験・提出物(100点、配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		地域・在宅看護論1 地域・在宅看護論2	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護学概論	1	15	1	1	教育主事 (実務経験:病院での成人看護)
到達目標					
成人期にある人の身体的・心理的・社会的変化と、健康における現状と諸問題および看護が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 成人看護の意義 1) ライフサイクルから見た成人期の位置づけ 成人期の区分と各発達段階と発達課題 2. 成人看護の対象の理解 1) 障害発達の特徴 成人期 各期の特徴(身体・心理・社会的な特徴) 2) 成人期の人々の生活・暮らし・人生(仕事・家族)		講義	・成人の生涯発達の特徴を 心理・社会的な発達と身体的な 発達がどのように関係しているのか考える。	
2	3. 成人期の生活と健康 1) 成人をとりまく環境と生活状況 2) 成人のライフスタイルの特徴 3) 成人の健康の状況 生活習慣病		講義		
3	4. 成人期の健康維持増進・疾病予防にむけた看護の機能と役割 1) 健康維持増進・生活習慣病対策等の保健・医療・福祉システムの概要 2) ヘルスプロモーションと看護		講義		
4	3) 大人の健康行動 (1) 大人の学習 (2) 学習に基づく行動形成 (3) 生活習慣病の予防と健康教育		講義		
5	5. 中範囲理論 1) 危機理論 2) ストレス・コーピング理論 3) 健康信念モデル 4) 病みの軌跡モデル 5) 変化のステージモデル 6) 自己効力感 7) エンパワメント		講義		
6	6. 成人の特性や能力に応じたアプローチ(中範囲理論の活用) 1) セルフケア行動形成へのアプローチ		演習		
7	2) 意思決定支援 3) 危機状況にある対象へのアプローチ		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護援助論Ⅰ	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護)
到達目標					
急性期・回復期にある成人期の対象に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 急性期・回復期の特徴		講義	担当講師:教員 45分	
2	2. 急性期にある対象と家族への看護		講義		
3	3. 回復期にある対象とその家族の看護		講義		
4	4. 急性心筋梗塞患者の看護 1)急性心筋梗塞の原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・治療を受ける患者の看護 心臓カテーテル検査、経皮的冠状動脈インターベンション 冠動脈バイパス術、心臓リハビリテーション		講義	・看護過程の展開 迅速な観察と適切な判断・対応について、解剖生理・病態生理、検査データと関連付けて学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ(循環器系)・病態学Ⅱ(循環器系)の解剖と機能 ・急性心筋梗塞、徐脈性不整脈の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。	
5	3)看護目標・看護活動		講義 グループワーク		
6	5. 不整脈患者の看護 1)薬物療法の看護		講義		
7	6. ペースメーカーを装着した患者の看護 1)ペースメーカー挿入が及ぼす影響 2)合併症予防の看護 3)日常生活の留意点		講義 グループワーク		
8	7. 熱傷患者の看護 1)障害の程度のアセスメント 2)看護目標・看護活動		講義		
9	8. 血液疾患患者の看護 1)骨髄機能障害(白血病)患者の看護 (1)障害の程度とアセスメント (2)輸血を受ける患者の看護 (3)化学療法を受ける患者の看護 (4)造血幹細胞移植を受ける患者の看護		講義		
10	(5)寛解導入期の看護 (6)寛解期の看護 (7)再発期の看護		講義 グループワーク		
11	9. 脳血管疾患患者の看護 1)くも膜下出血患者の看護 (1)原因と障害の程度のアセスメント (2)検査・治療を受ける患者の看護 血管内治療、脳室ドレナージ、開頭術等 (3)合併症・二次障害の予防と回復の促進に向けた看護		講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ・病態学Ⅰの脳神経系の解剖と機能、脳卒中、脳腫瘍の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。	
12	2)脳梗塞患者の看護 (1)原因と障害の程度のアセスメント (2)検査・治療を受ける患者の看護(画像検査、rt-PA等)		講義 グループワーク		
13	(3)機能障害(意識障害、運動麻痺、言語障害等)に応じた看護 (4)日常生活行動の再獲得を支援する援助		講義 グループワーク		
14	10. 運動器疾患の患者の看護 1)骨折の対象への看護 (1)ギプス固定を受ける患者の看護 (2)セルフケアを支える道具の活用(歩行者・杖)		講義 演習	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ(筋骨格器系)、病態学Ⅰ(運動器系)の筋骨格器系の解剖と機能、椎間板ヘルニア、脊髄損傷の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。	
15	2)脊椎損傷患者の看護 (1)原因と障害の程度のアセスメント (2)検査・治療を受ける患者の看護 (3)障害受容過程と援助		講義 グループワーク		
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野	基礎看護学4	臨床看護総論	医学書院	
	専門分野	成人看護学1	成人看護学総論	医学書院	
	専門分野	成人看護学 3	循環器	医学書院	
	専門分野	成人看護学 12	皮膚	医学書院	
	専門分野	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護援助論Ⅱ	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
手術を受ける成人期の対象に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護が理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 手術療法とは 2. 手術療法を受ける対象の特徴 3. 麻酔とは 1)麻酔の種類 2)麻酔が身体に及ぼす影響	講義	担当:院内講師		
2	4. 身体侵襲と生体の反応 1)手術侵襲とは 2)侵襲に対する生体反応:ムーアの分類	講義	担当:教員		
3	3)侵襲に対する生体反応:サイトカインによる生体調節機構	講義			
4	5. 創傷治癒 1)創傷治癒過程 2)創傷治癒に影響する因子	講義	45分 【事前学習】		
5	6. 術後合併症の発生機序	講義 グループ ワーク	・病態学Ⅳ皮膚の解剖生理と合わせて創傷治癒過程について学習する。		
6					
7	7. 手術療法を受ける対象の看護 1)術前の看護 (1)患者の主體的な参画を促す援助 (2)術前オリエンテーション (3)心理面を整える (4)全身状態を整える (5)手術前日の準備 (6)手術当日の看護	講義	・看護過程の展開 手術・麻酔侵襲や生体反応から術後に必要な観察・アセスメントについて学ぶ。		
8	2)術前の看護の実際	グループ ワーク			
9	3)術中の看護 (1)手術室の安全管理 (2)入室時の看護 (3)麻酔導入時の看護 (4)手術終了時の看護	講義			
10	4)術後の看護 (1)手術後の回復を促進するための援助 ・早期離床の促進 ・手術後の疼痛管理 ・輸液と栄養の管理 ・ドレーン管理 ・創傷管理 ・CV管理	講義			
11	5)術後患者の看護の実際	グループ ワーク			
12	8. 胃がんの手術を受ける患者の看護 1)胃切除術後の合併症と予防の看護 2)胃切除術を受けた患者の生活上の留意点 社会復帰に向けた看護	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅳ(消化器系)・病態学Ⅲ(消化器系)の胃の解剖と機能、胃がん、乳がん、大腸がんの病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。		
13	9. 大腸がんの手術を受ける患者の看護 1)大腸切除術後の合併症と予防の看護 2)機能障害に対する生活変化適応への看護	グループ ワーク			
14	10. 乳がんの手術を受ける対象の看護 1)形態変化・ボディイメージの変化に適応するための看護	講義 グループ ワーク			
15	2)障害の受容過程と援助	グループ ワーク			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護2 医歯薬出版				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護援助論Ⅲ	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
慢性期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 慢性期の特徴		講義	担当:教員 45分 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴ、病態学Ⅴの内分泌系の解剖と機能、糖尿病と甲状腺機能亢進症の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。	
2	2. 慢性期にある対象と家族への看護		講義		
3	3. 慢性期の患者とその家族に対する看護 生活支援の必要性		講義		
4	4. 慢性疾患の特徴と看護 1)糖尿病患者の看護 (1)原因と障害の程度のアセスメント、合併症 (2)検査・処置を受ける患者の看護:簡易式血糖自己測定		講義 グループワーク		
5	(3)糖尿病治療を受ける対象の看護 :食事療法、運動療法、薬物療法		講義 グループワーク		
6	(4)糖尿病治療を受ける対象の看護:インスリン補充療法		講義 演習		
7	(5)セルフケア確立に向けた援助 (6)コンプライアンスを高めるための援助		グループワーク		
8	4. 腎不全患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置を受ける患者の看護		講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、病態学Ⅱ、Ⅲ、Ⅴの呼吸器系と腎臓系、免疫系の解剖と機能、腎不全、慢性閉塞性肺疾患、AIDSの病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。	
9	5. 透析療法を受ける患者の看護 1)導入期の看護		講義		
10	2)維持期の看護		講義		
13	6. 甲状腺機能亢進症患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 ホルモン血中・尿中濃度測定、甲状腺切除術 等		講義		
14	3)生活上の留意点		講義		
11	7. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置を受ける患者の看護		講義		
12	3)慢性閉塞性肺疾患患者の看護 :呼吸管理、NIPPV、HOT導入		グループワーク		
15	8. AIDS患者の看護		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野 基礎看護学4 専門分野 成人看護学1 専門分野 成人看護学2 専門分野 成人看護学8 専門分野 成人看護学6 専門分野 成人看護学11	臨床看護総論 成人看護学総論 呼吸器 腎・泌尿器 内分泌 代謝 アレルギー 膠原病 感染症	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護援助論Ⅳ	1	30	2	2	院内講師(看護師)
到達目標					
終末期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 終末期の特徴 2. 緩和ケアとは		講義	担当：院内講師 45分 ・死を迎えつつある対象への看護師としての姿勢について考える。	
2	3. 終末期にある対象と家族への看護 1) 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント		講義		
3	2) 苦痛をやわらげ日常生活を営む援助 (1) 症状に関する苦痛への援助 (2) 日常生活を支える援助		講義		
4	3) 心理的安寧への援助 4) 在宅療養への移行支援		講義		
5	4. 臨死期のケア 1) 全身状態の変化の特徴 2) 臨死期における症状の特徴とケア 3) 死亡前後のケア：1週間前・数時間前、看取り・死後		講義		
6	5. 家族への看護		講義		
7	6. 死に対する悲嘆への援助 1) 予期悲嘆 2) デス・エデュケーション 3) グリーフケア		講義		
8	7. 緩和ケアにおけるチームアプローチ		講義		
9	8. 肺がん患者の看護 1) 障害の程度・症状のアセスメント・苦痛のアセスメント 2) 検査・治療を受ける患者の看護		講義 グループワーク	担当：院内講師 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ(呼吸器)の呼吸器の解剖と機能、肺癌の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅳの消化器系の解剖と機能、肝硬変、肝臓癌の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。	
10	3) 看護目標・看護活動		講義 グループワーク		
11	4) 肺がんで慢性呼吸不全のある患者への看護の実際(麻薬管理も含む)		演習		
12	9. 肝臓がん患者の看護 1) 原因と障害の程度のアセスメント 2) 検査・治療を受ける患者の看護 超音波検査・CT・静脈瘤硬化療法・TEA等		講義		
13	3) 肝臓がん患者の症状アセスメントと看護 腹水・浮腫・黄疸・肝性昏睡		講義 グループワーク		
14	4) 看護目標・看護活動		講義 グループワーク		
15	5) 肝臓がんの患者の看護の実際		演習		
16	終講試験				
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野	基礎看護学4	臨床看護総論	医学書院	
	専門分野	成人看護学1	成人看護学総論	医学書院	
	専門分野	成人看護学2	呼吸器	医学書院	
	専門分野	成人看護学5	消化器	医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験：病院での成人看護)
到達目標					
成人看護学で学んだ知識を統合し、対象の状態をアセスメントし、健康レベルに応じた援助が習得できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 急性期から回復期の対象の看護 1) 急性心筋梗塞の対象の看護 【急性期の看護】 (1) 対象の状態のアセスメント (2) 看護問題の抽出		講義	・scenarioを用いた臨床推論演習を行う。	
2	【急性期の看護】 (3) 看護計画の立案		グループワーク	【事前学習】 ・成人看護援助論Ⅰ、成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲで学んだ内容を復習する。	
3	【急性期の看護】 (4) 看護の実際 症状のある対象への苦痛の緩和・異常の早期発見		演習		
4	【回復期の看護】 (1) 対象の状態のアセスメント (2) 看護問題の抽出		グループワーク		
5	【回復期の看護】 (3) 看護計画の立案		グループワーク		
6	【回復期の看護】 (4) 看護の実際：安静度に応じた日常生活への援助		演習		
7	2. 手術療法を受ける対象の看護 1) 腹腔鏡下による結腸切除術を受ける患者の看護 (1) 術後合併症のリスクアセスメント		グループワーク		
8	(2) 術前看護の実際		演習		
9	(3) 術直後の観察の実際		演習		
10	(4) 術後1日目の対象の状態のアセスメント (5) 離床への援助の実際 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換		演習		
11	(6) 援助の実際の振り返り		グループワーク	45分	
12	3. 糖尿病の対象の看護 1) 検査・治療の実際：血糖測定、インスリン療法		講義 演習		
13	2) 生活支援		グループワーク		
14	3) 糖尿病患者の生活支援の実際		演習		
15	4) 糖尿病患者の生活支援の実際の振り返り		グループワーク	45分	
16	終講試験			45分	
17	客観的臨床能力試験(OSCE)			45分	
評価方法	筆記試験・提出物(50点、配点割合は講師より説明) 客観的臨床能力試験(OSCE)(実施30点、レポート20点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 専門分野 成人看護学6 内分泌 代謝 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護2 医歯薬出版				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での老年看護)
到達目標					
老年期を取り巻く社会と健康課題および看護の基本について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 老年期の対象 1)「古い」のイメージ 2)高齢者の定義 3)加齢と老化の概念 4)超高齢社会の動向 5)サクセスフルエイジング 2. 高齢者の発達と成熟 1)高齢者の発達課題		講義	【事前学習】 自分の高齢者・老いのイメージをまとめてくる。 高齢者を取り巻く社会の動向をまとめてくる。 【事後学習】 加齢性変化について学習を深めてまとめる。	
2	3. 加齢に伴う変化 1)身体的側面の変化		講義 グループワーク		
3	3. 加齢に伴う変化 1)身体的側面の変化		講義		
4	2)心理的側面の変化 3)社会的側面の変化		講義		
5	4. 高齢者の健康 1)高齢者の健康の特徴 2)生理的老化と病的老化 3)高齢者の疾病の特徴 4)フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム		講義		
6	5. 老年看護の倫理 1)高齢者の権利擁護 2)高齢者の人権に関する制度 3)高齢者虐待 4)高齢者の安全確保と身体拘束		講義		
7	6. 人生の終末への看護 1)高齢者の意思決定への支援 2)アドバンスケアプランニング 7. 老年看護の役割と特徴		講義		
8	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野 老年看護学 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
老年看護援助論Ⅰ	1	30	2	1	教員 (実務経験: 病院での老年看護)	
到達目標						
加齢に伴う変化をふまえ高齢者の生活を支える看護が理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 高齢者の生活を支える看護(ヘルスアセスメント) 1) 加齢に伴う運動機能の変化 2) 基本動作と日常生活活動の評価	講義	【事前学習】 加齢性変化および基礎看護学で学習した内容を復習して臨む。 【事前学習】 事例に対する看護計画を立案、学習して臨む。 【事前学習】 事例に対する看護計画を立案、学習して臨む。			
2	2. 高齢者の生活を支える看護(コミュニケーション) 1) 加齢に伴う視聴覚機能の変化 2) 加齢に伴う認知機能の変化 3) 高齢者とのコミュニケーションの方法	講義				
3	3. 高齢者の生活を支える看護(食事・食生活) 1) 高齢者における食事の意義 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 食生活のアセスメント 4) 食生活への支援	講義				
4	4. 高齢者の生活を支える看護(排泄) 1) 高齢者の排泄ケアの基本 2) 排尿障害のアセスメントとケア 3) 排便障害のアセスメントとケア	講義				
5	5. 高齢者の生活を支える看護(清潔・衣生活) 1) 高齢者にける清潔の意義 2) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 3) 清潔のアセスメント 4) 清潔・衣生活の援助	講義				
6	6. 高齢者の生活を支える看護(生活リズム) 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 生活リズムのアセスメント 4) 生活リズムを整える援助	講義				
7	1～6の内容をふまえた事例検討(アセスメント)	グループワーク				
8	1～6の内容をふまえた事例検討(援助計画の工夫)	グループワーク				
9	1～6の内容をふまえた事例検討(援助の実際)	演習				
10	7. 高齢者の生活を支える看護(廃用症候群) 1) 高齢者と廃用症候群 2) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた援助 8. 高齢者の生活を支える看護(転倒) 1) 高齢者と転倒 2) 転倒リスクのアセスメント 3) 転倒予防に向けた援助 4) 転倒した高齢者への援助	講義				
11	7. 8の内容をふまえた事例検討(アセスメントと援助計画)	グループワーク				
12	7. 8の内容をふまえた事例検討(援助の実際)	演習				
13	9. 高齢者の生活を支える看護(セクシュアリティ) 1) 高齢者におけるセクシュアリティ 2) セクシュアリティのアセスメントと看護 10. 高齢者の生活を支える看護(社会参加) 1) 高齢者の現状と目指す社会の方向性 2) 地域における高齢者の社会参加	講義				45分
14	11. エンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) 「生きること」支えるケア 3) 意思決定への支援、アドバンスケアプランニング 4) 末期段階に求められる援助、グリーフケア	講義				
15	11の内容をふまえた事例検討 (アドバンスケアプランニングの実際)	グループワーク				
16	終講試験					45分
評価方法	筆記試験・提出物(100点、配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門分野 老年看護学 医学書院 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院					

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名			
老年看護援助論Ⅱ	1	30	2	1	石川 雅裕 院内講師(看護師)			
到達目標								
健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術が理解できる。								
時	授業内容	方法	備考					
1	1. 高齢者の疾患の特徴(認知症) 1) 認知症の概念 2) 認知症の症状(認知機能障害・BPSD) 3) 診断に必要な検査	講義	担当:石川 雅裕					
2	4) 4大認知症 (1) 認知症の治療	講義						
3	2. 高齢者の疾患の特徴(パーキンソン病) 1) パーキンソン病の症状 2) 診断に必要な検査 3) 治療	講義						
4	3. 高齢者にみられる神経難病 (筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症) 1) 症状 2) 診断に必要な検査 3) 治療	講義						
5	4. 高齢者にみられる神経難病(重症筋無力症・多発性硬化症) 1) 重症筋無力症・多発性硬化症の症状 2) 診断に必要な検査 3) 治療	講義						
6	5. 症候のアセスメントと看護 1) 発熱 2) 痛み 3) 掻痒 4) 脱水 (1) 加齢に伴う病態と要因 (2) 生活への影響のアセスメント (3) 治療と援助	講義		担当:院内講師				
7	5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 (1) 加齢に伴う病態と要因 (2) 生活への影響のアセスメント (3) 治療と援助	講義						
8	6. せん妄・うつ状態にある高齢者の看護 1) 加齢による疾患の特徴と要因 2) 生活への影響のアセスメント 3) 治療と援助	講義						
9	7. 検査・治療を受ける高齢者の看護 1) 検査を受ける高齢者の看護	講義						
10	2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢に伴う薬物動態の変化 (2) 服薬管理能力のアセスメントと看護	講義						
11	8. 高齢者における疾患の看護(認知症) 1) 認知症高齢者とのコミュニケーション方法と療養環境の整備	講義						
12	2) 急性期一般病床での援助 3) 家族への支援とサポートシステム	講義			45分			
13	4) 認知症患者の看護	DVD						
14	9. 高齢者における疾患の看護(パーキンソン病)	講義						
15	1) パーキンソン症状と生活への影響とアセスメント 2) 症状コントロールに向けた援助	グループワーク						
16	終講試験			45分				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。							
テキスト	専門分野 専門分野 専門分野	老年看護学 老年看護 病態・疾患論 成人看護学7 脳・神経	医学書院 医学書院 医学書院					

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験: 病院での老年看護)
到達目標					
老年看護学で学んだ知識を統合し、生活機能の観点からアセスメントし、健康レベルに応じた高齢者への援助が習得できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 大腿骨頸部骨折 1) 加齢による疾患の特徴と要因 2) 大腿骨頸部骨折による身体的影響 3) 治療と看護 (1) 牽引療法 (2) 手術療法	講義	【事前学習】 ・加齢性変化について復習して臨む。 ・病態学Ⅲ大腿骨頸部骨折の病態・治療について復習して臨む。 ・成人臨床看護Ⅱの術前・術中・術後の看護について復習して臨む。 【事前学習】 ・エンド・オブ・ライフ・ケアについて復習して臨む。 ・高齢者の意思決定支援について復習して臨む。		
2	2. 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の事例展開 1) 直達牽引療法を受けている高齢者の情報収集とアセスメント	グループワーク			
3	2) 直達牽引療法を受けている高齢者の看護問題抽出	グループワーク			
4	3) 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 入院時の看護 (2) 外来診療時の看護 (3) 検査時の看護 (4) 手術療法時の看護	講義			
5	4) 術後の高齢者の看護問題抽出	グループワーク			
6	5) 回復を促進するための看護計画立案 (1) 生活の再構築に向けた援助 (2) 転倒・転落の予防	グループワーク			
7	6) 回復を促進するための看護の実際・評価	演習			
8	3. エンド・オブ・ライフ・ケア 1) 身体徴候のアセスメントと看護 2) 身体的苦痛の緩和と安楽への援助 3) 精神的苦痛や混乱に対する援助 4) 臨死期の評価と援助 5) 家族看護	講義			
9	4. エンド・オブ・ライフ・ケアの実際	講義			
10	1) 高齢者の尊厳を守る支援 事例検討: 高齢者の意思決定支援	グループワーク			
11	5. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 熱傷 3) チューブ類の事故	講義			
12	4) 皮膚損傷 同一体位・ずれの体験、体圧測定、ポジショニングの実際	講義 演習			
13	6. 高齢者の個別の日常生活能力、目標に合わせた援助 1) 呼吸困難がある高齢者の看護	講義 グループワーク		45分	
14	2) 高齢者への生活支援				
15	3) 嚥下障害のある高齢者の看護 ・口腔ケア ・義歯の取り扱い ・摂食嚥下訓練				
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野 老年看護学 成人看護学10 運動器 別巻 臨床外科看護総論 高齢者と成人の周手術期看護2	医学書院 医学書院 医学書院 医歯薬出版			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児期の成長・発達について学び、小児各期における身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。小児に関する統計・諸問題について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 小児看護の特徴と理念		講義 グループワーク	・グループワーク 「子ども」のイメージについて	
2	2. 小児と家族の諸統計		講義 グループワーク	【事前学習】 ・新聞等から子どもの医療事故について情報を集める。	
3	3. 医療費の支援 4. 小児看護の課題		講義		
4	5. 子どもの成長・発達		講義	【事前学習】 ・母子手帳を活用し、自身の小児期の成長・発達状況について振り返る。	
5	6. 新生児・乳児の形態的・身体生理の特徴、養護及び看護		講義		
6	7. 幼児・学童の形態的・身体生理の特徴、養護及び看護		講義		
7	8. 思春期・青年期の形態的・身体生理の特徴、養護及び看護		講義	【事前学習】 ・それぞれの都道府県において、子どものための施設にはどのようなものがあるか調べる。	
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護援助論 I	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児を取り巻く社会と健康課題について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 家族の特徴とアセスメント		講義	【事前学習】 ・自分にとっての家族について考えるをまとめる。	
2	2. 子どもと家族を取り巻く社会 1)医療費の支援 2)母子保健 3)医療費の支援 4)予防接種		講義 グループ ワーク	【事前学習】 ・母子手帳から自身の予防接種状況を確認する。 ・HP等を活用し、地域における母子保健事業、予防接種制度について調べる。	
3	2. 子どもと家族を取り巻く社会 5)学校保健 6)食育 7)特別支援教育 9)臓器移植		グループ ワーク	・学校保健統計調査の結果から、我が国の子どもの健康問題について情報を収集する。	
4	9)子どもと家族を取り巻く社会まとめ		発表 講義		
5	3. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1)病気障害が子どもと家族に与える影響		講義 DVD レポート		
6	2)健康問題をもつ子どもと家族の看護				
7	3)生活制限のある子どもと家族の看護				
8	4. 子どもの状況に特徴づけられる看護 1)外来における子どもと家族の看護		講義		
9	2)入院中の子どもと家族への影響 3)在宅療養を行う子どもと家族の看護 4)災害時の子どもと家族の看護				
10	5. 症状を示す子どもの看護 1)不きげん 2)啼泣 3)痛み 4)呼吸困難 5)チアノーゼ				
11	6)ショック 7)意識障害 8)痙攣 9)発熱 10)嘔吐		講義 グループ ワーク 発表		
12	11)下痢 12)便秘 13)脱水 14)浮腫 15)出血				
13	16)貧血 17)発疹 18)黄疸 19)まとめ				
14	6. 障害を抱える子どもと家族の看護 1)障害のとらえ方		講義 DVD		
15	2)障害のある子どもと家族の特徴 3)障害のある子どもと家族の社会的支援			45分	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験 (100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
小児看護援助論Ⅱ	1	30	2	1	院内講師(医師) 院内講師(看護師)	
到達目標						
小児期に特徴的な疾患・症状のアセスメントとその看護が理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 小児期に特徴的な疾患の病態症状・診断・治療	講義	担当講師：院内講師 【事前学習】 ・小児看護学概論の小児期の各発達段階における生理機能(体温・呼吸・循環・栄養・免疫など)の特徴と看護について学習をする。 担当講師：院内講師 【事前学習】 ・小児看護学概論の成長曲線について学習をする。 ・小児看護援助論Ⅰ、Ⅱで学んだ疾患や症状、治療が小児や家族に与える影響について学習をする。			
2	1) 先天異常：ダウン症 2) 新生児医療	講義				
3	3) 呼吸器疾患：肺炎・気管支炎 4) 循環器疾患：ファロー四徴症、川崎病	講義				
4	5) 消化器疾患：急性胃腸炎 6) 血液・腫瘍疾患：白血病	講義				
5	7) 腎・泌尿器疾患：ネフローゼ症候群 8) 内分泌疾患：Ⅰ型糖尿病	講義				
6	9) 免疫・アレルギー疾患：気管支喘息 10) 神経疾患：熱性けいれん	講義				
7	11) 感染症 12) 予防接種	講義				
8	2. 子どもにおける疾患の経過と看護 1) 周手術期にある子どもと家族の看護 (1) ファロー四徴症	講義				
9	2) 急性期にある子どもと家族の看護 (1) 肺炎	講義				
10	(2) けいれん	講義				
11	(3) 感染症	講義				
12	3) 慢性期にある子どもと家族の看護 (1) Ⅰ型糖尿病	講義				
13	(2) ネフローゼ症候群	講義				
14	4) 終末期にある子どもと家族の看護 (1) 小児がん	講義				
15	5) 子どもにおける疾患の経過と看護まとめ	講義				45分
16	終講試験					45分
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門分野 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院					

専門分野：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師) 院外講師 教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児看護学で学んだ知識を統合し、小児の成長発達をふまえアセスメントし、健康レベルに応じた小児への援助が習得できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 子どものアセスメント 1)子どものアセスメントに必要な技術 コミュニケーション	講義 演習	担当:教員 【事前学習】 ・小児看護学概論の成長曲線について学習をする。 ・小児看護学概論の小児期各期における遊びの特徴について学習をする。 【事前学習】 ・小児看護援助論Ⅱでの「呼吸器疾患」「急性期における子どもと家族の看護」について復習をする。 45分 担当:院外講師 担当:教員 担当:院内講師 【事前学習】 ・NICU(新生児集中治療室)の役割と特徴について調べる。 45分		
2	1)子どものアセスメントに必要な技術 バイタルサイン測定 身体測定				
3	1)子どものアセスメントに必要な技術 一般状態 フィジカルアセスメント				
4	2. 検査・処置を受ける小児と家族の看護 1)検査・処置総論	講義			
5	2)検査・処置各論	講義 グループ ワーク			
6	3)プレパレーション、検査の介助	演習			
7	3. 気管支喘息のある児への看護 1)急性期発作時への対応	グループ ワーク 発表			
8	2)薬物療法時の看護				
9	3)長期的管理における看護(生活支援)				
10	4)看護のまとめ	講義			
11	5. 障害のある子どもの看護 1)重症心身障害児の歴史 2)重症心身障害児の特徴	講義 演習			
12	6. 重症心身障害児(者)看護の実際 1)障害の程度に応じた日常生活援助の実際				
13	2)成長発達の促進、QOLの向上、療育の実際	講義			
14	4. 低出生体重児の看護 1)低出生体重児の特徴	講義			
15	2)低出生体重児の看護の実際	講義			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学概論	1	15	1	2	新宮 美紀
到達目標					
母性を取り巻く社会を理解し、母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象と役割を理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1)母性とは 2)母子関係と家族発達		講義	【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。	
2	3)セクシュアリティ 4)リプロダクティブヘルス・ライツ 5)ヘルスプロモーション		講義		
3	2. 母性を取り巻く社会の変遷と現状 1)母性看護の変遷 2)母子保健統計 3)母性看護に関する主な法律		講義		
4	4)母子保健施策 5)母性看護の提供システム		講義		
5	3. 母性看護のあり方と倫理 1)母性看護のあり方 2)母性看護における倫理		講義		
6	4)リプロダクティブヘルスケア ・家族計画 ・人工妊娠中絶と看護		講義		
7	4. 母性看護の対象理解 1)女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2)女性のライフサイクルと家族 3)母性の発達・成熟・継承		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護援助論 I	1	30	2	1	東野 直美 教員 (実務経験:病院での母性看護)
到達目標					
女性のライフステージ各期における看護を理解できる。また、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児について、対象の生理的変化・経過を理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. ライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護	講義	担当: 教員		
2	2) 思春期における健康と看護	講義	【事後学習】 ・女性のライフステージ各期における特徴と健康課題・看護について理解しまとめる。		
3	3) 更年期・老年期の健康と看護	講義			
4	2. 正常な妊娠の経過 1) 妊娠期の定義 2) 妊娠の成立	講義	担当: 東野 直美 45分		
5	3) 妊娠の経過と胎児の発育 4) 母体の生理的変化	講義	解剖生理学・母性概論 各論のテキスト持参		
6	5) 母体の心理・社会的変化 6) 妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント 7) 妊婦健康診査、産科的診断法	講義	グループワーク準備物 ハサミ準備物: 模造紙、ポスト トイット、油性ペン		
7	3. 妊娠経過と妊婦・胎児の健康生活のアセスメント	グループ ワーク			
8	4. 妊娠と家族への看護	講義	分娩経過についてのWS 穴埋め課題		
9	5. 正常な分娩の経過	講義			
10	6. 産婦・胎児の健康状態のアセスメント	講義	胎児と骨盤模型		
11	7. 正常な産褥の経過	講義	モニター波形モデル		
12	8. 産婦の健康と生活のアセスメント	講義	45分		
13	9. 産婦と家族への看護	講義			
14	10. 正常な新生児の経過	講義	45分		
15	11. 新生児の健康状態のアセスメント 12. 新生児の看護	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
母性看護援助論Ⅱ	1	30	2	1・2	院内講師(医師) 教員	
到達目標						
妊娠、分娩、産褥および新生児期の異常について理解できる。 生理的变化から逸脱した対象や家族への看護について理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の異常 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠悪阻 4) 妊娠貧血	講義	担当:院内講師(医師) 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。 担当:教員 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。 【事後学習】 ・各疾患において、病態・検査・治療・処置・看護についてまとめる。			
2	5) 妊娠高血圧症候群 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤	講義				
3	3. 分娩期の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児・胎児附属物の異常 4) 胎児機能不全	講義				
4	4. 産褥期の異常 1) 帝王切開術後 2) 子宮復古不全	講義				
5	3) 産褥熱 4) 乳腺炎 5) 産後精神障害	講義				
6	5. 新生児の異常 1) 先天性異常 2) 早産児 3) 低出生体重児 4) 新生児一過性多呼吸 5) 呼吸窮迫症候群	講義				
7	6) 胎便吸引症候群 7) 高ビリルビン血症 8) 新生児ビタミンK欠乏症 9) 低血糖症	講義				
8	6. 妊娠期の健康問題に対する妊婦と家族への看護 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠悪阻 3) 妊娠高血圧症候群 4) 前置胎盤	講義				
9	5) 双胎妊娠 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤 8) 若年妊婦・高齢妊婦への看護	講義				
10	7. 分娩期の健康問題に対する産婦と家族への看護 1) 前期破水 2) 分娩時異常出血 3) 陣痛異常	講義				
11	4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦への看護 5) 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義		45分		
12	8. 産褥期の健康問題に対する産婦・家族への看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産褥精神障害 5) 尿路感染・排尿障害 6) 帝王切開術を受けた産婦の看護	講義				
13	9. 新生児の健康問題に対する新生児と家族への看護 1) 先天異常 2) 早産児、低出生体重児	講義				
14	3) 新生児一過性多呼吸 4) 呼吸窮迫症候群 5) 胎便吸引症候群 6) 高ビリルビン血症 7) 新生児ビタミンK欠乏症 8) 低血糖症	講義				
15	10. 健康上の問題がある児の親・家族への看護 1) 蘇生・処置を受ける児 2) 手術療法を受ける児 3) 死産 4) 障害児	講義 演習				
16	終講試験	講義		45分		
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院					

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での母性看護)
到達目標					
母性看護学で学んだ知識を統合し、妊産褥婦と新生児及びその家族の看護が理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 母性看護に必要な看護技術 1)母性看護における看護過程 2)情報収集・アセスメント技術 3)母性看護に使われる看護技術 ・健康教育 ・保健指導	講義	【事前学習】 ・母性看護学概論で学習した母性看護の対象理解について学習する。 ・ウェルネス思考とはどのような考え方が調べる。 ・母性保健の正常な妊娠・分娩・産褥経過について学習する。 事例による看護の展開 事例を用いて、妊娠期、産褥期、新生児期の看護過程を展開する。ウェルネス志向にて対象の健康課題をとらえる。		
2	2. 妊娠期の看護過程 1)妊娠期の健康状態のアセスメント	講義 グループワーク			
3	2)妊婦の健康診査と看護 (1)産科的診断法 ・レオポルド触診法 ・児心音聴取 ・ノンストレステスト ・子宮底測定	講義 演習			
4	3)妊娠期の保健指導 演習	講義 演習			
5	3. 分娩期の看護 1)分娩各期の経過と産婦のアセスメント 2)胎児の健康状態のアセスメント	講義 DVD			
6	3)産婦と家族への看護	講義 グループワーク			
7	4. 産褥期の看護過程 1)褥婦の健康状態のアセスメント	講義			
8	2)褥婦の心理・社会的変化のアセスメント	講義			
9	3)褥婦への看護 (1)身体機能の回復・退行性変化に対する援助 (2)進行性変化への援助	講義 グループワーク			
10	(3)母乳育児への支援 (4)育児技術獲得への援助	DVD 演習			
11	5. 新生児への看護 1)新生児の健康状態のアセスメント	講義			
12	2)新生児への看護	講義 グループワーク			
13	3)新生児への看護技術	講義			
14	6. 新生児の看護の実際 演習 1)バイタルサイン測定 2)身体計測 3)抱き方・寝かせ方	演習			
15	4)オムツ交換 5)沐浴・臍処置 6)更衣	演習			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験・提出物(100点 配点割合は講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
社会における心の健康とそれらに影響を与える要因を理解し、健全な精神発達への援助が理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神看護の概念 1)「心のケア」と現代社会 精神科医療の現状 2)精神の健康とは 3)精神障害のとらえ方		講義	【事前学習】 ・心理学で学習した人間の心のはたらきについて復習する。 ・ライフステージごとに心理的特徴と生じやすい問題についてまとめる。 【事前学習】 ・心理学、人間関係論で学習した人間関係について復習する。	
2	2. 人間の心の諸活動		講義		
3	3. 心のしくみと人格の発達		講義		
4	4. ストレスと健康の危機、レジリエンス		講義		
5	5. 関係のなかの人間 1)全体としての家族 2)人間と集団		講義		
6	6. リエゾン精神看護		講義		
7	7. 看護師のメンタルヘルス		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護援助論Ⅰ	1	20	2	1	院内講師(医師) 院内講師
到達目標					
精神保健における施策について学び、精神の健康を取り巻く社会制度について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神保健の概念		講義	担当: 院内講師 45分 【事前学習】 ・法制度についてまとめる。 ・精神障害をもつ対象の倫理について考える。 ・デイケア・外来・社会復帰施設・共同作業所・グループホームについて目的・役割をまとめる。	
2	2. 精神保健福祉の歴史 3. 諸外国における精神保健福祉		講義		
3	4. 精神科医療の動向				
4	5. 精神障害と法制度		講義		
5	6. 精神保健福祉活動 7. 精神障害の一次予防、二次予防、三次予防		講義		
6	8. 地域移行支援・地域生活支援の基礎		講義		
7	9. 特定の状況に対する精神保健福祉 1) 自殺		講義		
8	2) 物質依存		グループワーク		
9	3) 災害		発表		
10	4) 性別違和、性(ジェンダー)同一性 5) 子どもの虐待		講義		
11	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ 別巻 精神保健福祉	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
精神看護援助論Ⅱ	1	30	2	1.2	院内講師(医師) 院内講師(看護師)	
到達目標						
精神疾患および精神障害について理解し、精神障害をもつ対象と家族への看護について理解できる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 精神疾患と障害の理解 1)精神症状論と状態像	講義	担当:院内講師 【事前・事後学習】 ・症状についてまとめる。 (陰性症状・陽性症状:幻覚妄想・無為・精神遅滞せん妄・自閉・昏迷・拒絶意欲低下・興奮・強迫観念感覚鈍麻) ・薬物療法の作用・副作用をまとめる。			
2	2. 精神障害の診断と分類 1)統合失調症	講義				
3	2)気分障害 3)摂食障害 4)ストレス障害 5)心的外傷後ストレス障害	講義				
4	6)認知症 7)器質的精神障害 8)てんかん	講義				
5	9)発達障害 10)ジェンダー 11)障害者虐待 12)物質依存	講義				
6	3. 精神科での治療 1)薬物療法 2)電気けいれん療法 3)治療的環境 4)精神療法、社会生活技能訓練等	講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・社会生活技能訓練、心理教育についてまとめる。			
7	4. 身体合併症	講義				
8	5. 安全を守る	講義				
9	6. 精神科における身体ケア 1)治療と身体ケア 2)フィジカルアセスメント	講義				
10	3)日常生活における身体ケア 4)グループアプローチ	講義		45分		
11	7. 精神障害をもつ患者の看護 1)統合失調症患者の看護	講義 グループワーク		【事前学習】 ・統合失調症の看護、気分障害患者の看護、心身症患者の看護についてまとめる。		
12						
13	2)気分障害患者の看護	講義				
14	3)心身症患者の看護	講義				
15	8. 家族への看護 9. 地域での看護	講義				
16	終講試験		45分			
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。					
テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 別巻 精神保健福祉				医学書院 医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師)
到達目標					
精神看護学で学んだ知識を統合し、精神障害をもつ対象および家族への看護が理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	精神看護における看護技術	講義	担当：院内講師		
2	ケアの方法	講義			
3	患者-看護師関係で起こること 患者-看護師関係成立の技術	講義 演習	【事前学習】 ・患者-看護師関係の理解については、ペプロウの看護理論についてまとめ学習する。 【事後学習】 ・プロセスレコードを記述し、アプローチの方法・関係性について振り返る。		
4	関係性をアセスメントする プロセスレコード	講義			
5	コミュニケーション演習	演習	45分		
6	コミュニケーション演習	リフレクション			
7	統合失調症患者の事例検討 症状アセスメント	グループワーク	担当：院内講師		
8	統合失調症患者の事例検討 セルフケアレベルのアセスメント	グループワーク			
9	統合失調症患者の事例検討 プロセスレコードを用いたアセスメントの実際	グループワーク	45分		
10	統合失調症患者の事例検討 身体ケア	グループワーク			
11	統合失調症患者の事例検討 身体ケア	演習	45分		
12	統合失調症患者の事例検討 地域で生活するための支援	グループワーク			
13	気分障害、心身症患者の看護 事例検討	グループワーク	45分		
14	気分障害、心身症患者の看護 事例検討	グループワーク			
15	レジリエンスを高める	講義	45分		
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護管理	1	15	3	1.2	看護部長
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解し、必要な基礎的知識・技術・態度について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 看護とマネジメント		講義	【事前学習】 ・チーム医療を支える職種とその役割について調べる。 【事前学習】 ・看護ケア提供システムについて調べる。 ・看護学概論の看護体制について学習する。	
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) チーム医療とは 2) チーム医療の中での職種間の連携・調整		講義		
3	3. 看護職のキャリアマネジメント		講義		
4	4. 看護サービスのマネジメント 1) 看護単位と看護ケア提供システム 2) 看護チームでの情報伝達・共有		講義		
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1) リーダーシップとマネジメント: 倫理的問題		グループワーク		
6	2) リーダーシップとマネジメント (2) 特性理論、行動理論、条件適合理論		講義		
7	6. 看護ケア提供システム看護管理のまとめ		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		統合分野 看護の統合と実践 専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護管理 看護学概論	医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
災害看護と国際協力	1	15	3	1.2	教員
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解し、必要な基礎的知識・技術・態度について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 諸外国への国際協力 1) 国際協力とは 2) 世界の健康問題の現状 ・グローバルヘルス ・MDGs ・SDGs 3) 国際協力のしくみ 2. 国際救援と看護の実際		講義 グループ ワーク	【事前学習】 ・近年行われている国際救 護活動について調べる。	
2	3. 文化を考慮した看護 1) 異なる文化(宗教・生活習慣 等) 2) 在留外国人への対応 ・救急外来での対応 ・入院中の対応 ・旅行者への対応		鑑賞		
3	4. 災害医療の基礎知識 1) 災害とは 2) 災害医療の特徴 3) 災害に対する社会的対応システム CSCATTT、トリアージ、DMAT 4) 災害が人々の健康生活に及ぼす影響		講義	【事前学習】 ・DMATの活動について調 べる。 ・舞鶴市の災害マップを調 べる。	
4	5. トリアージの実際		講義 演習		
5	6. 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義 2) 災害看護の役割 3) 災害看護の対象 7. 災害時の看護活動 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期		講義	【事前学習】 ・事例をもとにこころのケア について考える。	
6	8. 被災者と救援者の心理とこころのケア		講義		
7	9. 災害時の医療援護活動の実際 ・BCPIに沿った発災時の対応		演習		
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験・レポート(100点, レポート配点については講師より説明) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		統合分野 看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
医療安全	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解し、必要な基礎的知識・技術・態度について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 医療安全の概念 ・ヒューマンエラー 2. 医療安全対策の国内外の潮流 1) 国・組織としての安全対策		講義	担当: 院内講師 【事前学習】 ・近年発生している医療事故について調べる。 ・看護師の法的責任について調べる。 45分 担当: 教員 【事前学習】 ・診療の補助技術、療養上の世話で生じる事故について調べる。また事故の原因についてまとめる。 ・看護師の法的責任について調べる。 45分	
2	3. 医療事故の構造 4. 医療事故防止の考え方 5. 看護業務にかかる看護師の法的責任・倫理		講義		
3	6. 医療におけるリスクマネジメント 1) リスクマネジメントの基本と方針		講義		
4	7. 臨床で起こっている事故の実際と対策、実例 1) 診療の補助の事故		講義 グループ ワーク		
5	2) 療養上の世話の事故				
6	8. 医療のリスクマネジメントのプロセスとその実践 1) リスクマネジメントのプロセス 2) リスクの分析(RCA分析) 3) リスクへの対応		講義		
7	9. RCA分析演習①		グループ ワーク		
8	9. RCA分析演習② (45分)		発表		
9	10. 看護学生の実習と安全		講義 グループ ワーク		
10	11. 看護技術のリスクと安全		グループ ワーク		
11	12. 起こりやすい医療事故とその対応 1) コミュニケーション		講義 グループ ワーク		
12	2) 診療の補助技術 ・針刺し事故		講義 演習		
13	3) 療養上の世話		講義 グループ ワーク		
14	13. 危険予知トレーニング(KYT)①		講義 グループ ワーク		
15	13. 危険予知トレーニング(KYT)②		グループ ワーク		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。			
テキスト		統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
臨床看護の実践	1	30	3	1.2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解し、必要な基礎的知識・技術・態度について理解できる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. ME機器を使用する患者の看護 1)輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法		講義 演習	【事前学習】 ・輸液ポンプ、シリンジポンプのしくみと基本的取り扱いについて調べる。 ・scenarioを用いた臨床推論演習を行う。 ・事例の状態をアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・基本看護技術を練習し演習に臨む。	
2	2)輸液ポンプ・シリンジポンプ使用中のリスク管理 ・点滴漏れの観察と判断、その対応 ・持続的点滴静脈内注射の実施における事故防止(事例検討)		講義 演習		
3	2. 様々な状況下にある対象への看護 1)様々な状況、状態にある対象の臨床判断①(腹痛①) (1)気づき(観察) (2)解釈(臨床推論) (3)行為(看護) (4)リフレクション		講義 グループ ワーク 演習		
4	様々な状況、状態にある対象の臨床判断②(腹痛②) (1)気づき(観察) (2)解釈(臨床推論) (3)行為(看護) (4)リフレクション				
5	様々な状況、状態にある対象の臨床判断③(倦怠感) (1)気づき(観察) (2)解釈(臨床推論) (3)行為(看護) (4)リフレクション				
6	様々な状況、状態にある対象の臨床判断④(発熱) (1)気づき(観察) (2)解釈(臨床推論) (3)行為(看護) (4)リフレクション				
7	2)多重課題における優先順位の判断(45分)		講義	45分	
8	多重課題への対応:複数患者への看護実践 (1)行動計画の立案		講義 演習	45分 ・臨床現場に近い形での演習を行う。	
9	(2)多重課題の優先順位の判断と計画修正				
10	(3)多重課題演習① ・優先順位の判断				
11	(4)多重課題演習② ・チームの連携				
12	(5)優先順位の判断、多重課題への対応 ・まとめ				
13	3)緊急時の対応 (1)医療安全:転倒				
14	(2)患者管理:離棟				
15	(3)急変対応:BLS				
16	終講試験			45分	
17	客観的臨床能力試験(OSCE)			45分	
評価方法	筆記試験(50点) 客観的臨床能力試験(OSCE)(実施:30点、レポート20点) 他の事項については、履修規程第6条、第7条に定めるとおりとする。				
テキスト	統合分野 看護の統合と実践 医療安全 医学書院 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研				